



長崎県対馬病院実習記 「対馬地区離島実習」

2019. 12. 2～3

長崎大学医学部医学科

5年 井上 知晃

私は、今まで約一年間主に長崎大学病院で実習を行い、今回初めて離島医療を体験させて頂くにあたり、非常に楽しみにしておりました。対馬は美しいリアス式海岸に囲まれた風光明媚な島であり、食事についても夕食にいただいたお刺身が非常に美味しかったです。そのような対馬の医療の拠点となる対馬病院でこの



度二日間実習を行わせて頂きました。対馬病院は平成二十七年に新装されたことであり、非常にきれいな病院でした。一般的に離島の医療は医療資源が不足していて提供できる医療の質が低いというイメージを抱きがちですが、対馬病院においてはそのようなことは全くなく、見学させて頂いた鼠径ヘルニアの手術や冠動脈狭窄に対するP C Iにおいても大学病院や長崎市内の病院と同等の手技が行われていました。もちろん、重症度の高い一部の疾患については専門の病院に搬送する必要があります。日中はドクターヘリで比較的短時間で搬送できることに対して夜間は自衛隊ヘリを要請する必要があるため、ヘリの出動までに時間を要するという問題が生じ、保存的加療の患者であっても夜間に急変する可能性を考慮して日中に搬送すべきかどうかを判断する力が対馬で働く医師として必要になると教えて頂きました。また、今回の実習で強く印象に残ったことは対馬病院の先生方は総合診療の能力に加えてそれぞれ専門性も兼ね備えていることです。他の先生から難しい疾患について相談を受けることができる専門性を持つことで、お互いに相談をして専門性を要する部分をカバーしていました。自分は総合診療医を目指していますが、専門性をもつことで患者さんや他の医師から頼られる医師になりたいと思います。この度は対馬病院にて有意義な実習を行うことが出来ました。心より感謝申し上げます。